

宮里大八国際交流基金
Okinawan Dreams Project

成果報告書



2020年1月

目次

■はじめに

■概要

■プロジェクト実施関係者

■実施スケジュール

■プログラム概要

■サポート内容

■プロジェクト全体スケジュール

■現地での様子

■成果報告会の実施

■寄付者及び助成機関、関係者

■助成金額

■おわりに

■はじめに

公益財団法人みらいファンド沖縄では、寄付者の想いをかたちにするために、寄付金の使い道に対し条件を決めることができる基金(じぶん基金)を支援しています。じぶん基金を活用して「宮里大八国際交流基金」を、沖縄の子どもたちに世界を経験させたいとの想いで設立しました。

宮里大八国際交流基金ではこれまで、世界 34 カ国の大学生が参加し、地域の課題を解決する成果発表を行う「エナクタス ワールドカップ (Enactus World Cup)」へ大学生の派遣支援を行ってきました。その中で気づいたことは、大学生よりも若い世代である高校生や中学生に世界を感じてもらえる機会を提供することが重要であるということです。

世界の若者は、中高生の頃から PBL (Problem Based Learning ; 問題解決型学習、Project Based Learning ; 課題解決型学習) 型を行っています。沖縄の中高生も、一度、世界に飛び出し、世界の問題や地域の課題を気づいてもらい、世界にいる同世代の子ども達と出逢う機会をつくるため、英会話教材「スピークナチュラル」を活用した英語コミュニケーションのトレーニングを行い、アジアへの旅費・滞在費を助成するプログラムを実施しました。

■概要

【沖縄では得られないアジアでの体験・冒険へ】

今回のプロジェクトでは、選ばれた中高生の方々に英語によるコミュニケーションを高めてもらうため、英語教材のスピークナチュラルを提供します。3 週間、英語教材で英語のトレーニングを行い、インドネシアでの海外での体験・冒険をしてもらいます。そのため海外への旅費・滞在費、海外保険等の料金を助成します。

沖縄の先人たちは万国津梁の精神により、世界との架け橋・交流によって繁栄を築いてきました。今回の助成を活用して、中国や東南アジア、海外との交易を通して、人と文化の架け橋を目指してきた琉球の先人から受け継いだ志を受け継いでくれることを期待しています。

【寄付によって期待される効果】

沖縄とは違う人や文化にふれる機会を提供する



沖縄では得られないアジアの同世代が何を感じ、何を目標に生きているのかを知る



地域課題をグローバルな視点で考えるきっかけを作ることができる



自分自身の夢や目標を確認することができる

■プロジェクト実施関係者

設立者：琉球大学 非常勤講師 / 沖縄市経済文化部観光振興課 主幹 宮里大八

協力者：トビタテ！留学JAPAN地域人材コース 3期生 インドネシア在住 屋宜里佳

採択者：前原 太陽（まえはら たいよう） 那覇中学校 2年生

大川 花音（おおかわ かのん） 開邦高校 2年生

引率者：桃原 花女（とうばる かな） 宜野湾高校 2年生

■実施スケジュール

募集期間： 2019年7月8日～7月29日

派遣期間： 2019年8月18日～8月30日(インドネシア)

募集対象： 沖縄における児童養護施設やひとり親家庭、里親家庭等の子どもたち

■プログラム概要

宮里大八国際交流基金では、ひとり親家庭、児童養護施設、里親家庭等の中高生を対象に、2019年もアジアにいる同世代の子ども達と出逢う機会をつくるため、英会話教材「スピークナチュラル」を活用した英語コミュニケーションのトレーニングを行い、アジアへの旅費・滞在費を助成するプログラムを実施しました。

今回、中学生、高校生から7人の生徒から申し込みがあり、厳正な選考の上、上記の2人を決定しました。また、同世代のリーダーシップを学ぶ機会として、海外渡航及び海外交流の経験があり、コミュニケーションを持つ高校生リーダーを引率者として選定しました。

■サポート内容 採択者に下記サポート内容を提供

- ・資金補助ーパスポート作成、海外保険、旅費、滞在費
- ・英会話トレーニング
- ・海外渡航の知識や目的形成
- ・現地渡航の同行、活動視察

■プロジェクト全体スケジュール

英会話トレーニング 期間：8/1～

各学生に株式会社ロープスのスピークナチュラルを配布し、各自、派遣に向けた英語学習を行いました。

海外派遣

【インドネシア 期間：8/18～8/30】

受入先：バリ倶楽部

事業内容：「ご案内します」が従来のツアー案内に対して、「一緒に冒険しましょう」と、お客様が主体的に参加するツアーを OJI エクスプローラーとして提供しています。自然から学び、自然を考慮しながらもう一步二歩深く入っていき、本物を体感することにより新たな発見や気づきが生まれる旅を提供しています。バリの家庭でのホームステイ、マンタとのシュノーケリングや SUP 体験、地域の寺院やバリ舞踊見学、結婚式やお葬式の参列、地元の子供たちとの交流のサポートと行っています。

期 間：2019年8月18日(日)～8月30日(金)

■現地での様子



■成果報告会の実施

日時：2019年9月28日(土) 10時00分～12時00分

場所：公益財団法人みらいファンド沖縄オフィス

それぞれドリーマー自身の経験を、プレゼンテーション形式で発表しました。当日のプレゼンテーションは、家族や関係者がいる中で緊張しながらも、事前に作成した資料を見せながら、パソコンやスマートフォンで制作した発表スライドを活用して報告を行いました。発表者からは、「新しい文化に触れることができ貴重な体験だった」「ホームシックになった時期もあったが、最後は帰りたくなかった」「海外とつながる仕事をしたい」「これからもバリやアジアのことを考えていきたい」など、彼女らが現地で学び感じたことを今後の夢や目標にどうつなげていくのか、一生懸命発表していました。

また、家族の皆さんからも「今回のプログラムで成長した姿を感じることができた」「子供が将来の目標を見つけることができ良かった」「学校の関係者にも伝えていきたい」などの声がありました。

■成果報告会の写真



■当日の発表資料

前原 太陽（まえはら たいよう） 那覇中学校 2年生

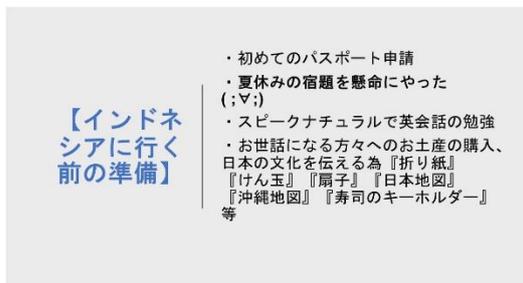


期間：令和元年8月18日（日）
～ 令和元年8月30日（日）

場所：インドネシア バリ島

【応募の理由】

多文化・多言語を体感し学び
沖縄・日本文化を伝えたいと思った



バリクラブでのインターンシップ体験



ホームステイ先のお母さんの仕事先の
小学校へ見学に



小学4年生で英語ペラペラだった！！



美術の授業



とても上手な絵に驚いた



バリ島で小学校の貴重な授業体験をした



【バリ島での日程】

2週目

- ステイ先：バリ島の田舎町両親とおじ・おば、従妹達約20名と暮らす大家族。
- バリ島の伝統的な習慣を体験
 - ・朝のお祈りの儀式と一緒にいった
 - ・バリの民族衣装を着た

天空のランプヤン寺院



朝の祈り



寺院に行くまでの道のりは結構楽だった

寺院までの道のり



ホームステイ先の友達



バリ島での生活で感じたこと

- ・今までやったことのない毎朝行方、火山のお供え物をする儀式
- ・学校は7時~12時半迄で、木曜日は11時半迄、土日休みは
- ・小学4年生で英語がペラペラだった
- ・食文化は、沖縄と違い辛い物や味の濃い物が多い
- ・田舎でのホームステイ先は冷蔵庫が冷えてなかった
- ・交通手段がバイクだった&ノーヘルだった人もいた

バリ島ホームステイ体験して

バリ島でのホームステイ体験を終えて、僕の住んでいる沖縄との環境の違い、文化の違いを体験し世界にはいろんな文化があることを感じた。

これらの体験から自分自身の将来の為に今できることを頑張ろうと思いました。

初めての飛行機が海外旅行で乗り継ぎあり、ビジネスクラスにも乗れてラフアンジにも行け、美味しいチャーハンも食べれた。ビジネスクラスに乗れる大人になりたいと思った。

大川 花音 (おおかわ かのん)

開邦高校

2年生





ホームステイ



2週間目



バリのごはん



バリで学んだこと

宗教のこと
自分からいく大切さ
コミュニケーションのとり方
言語が通じないということ



帰国して

宗教について興味を持った
もっと海外へ行ってみたい
色々な言語を学びたい
お世話になった方に会いに行きたい

桃原 花女 (とうばる かな)

宜野湾高校

2年生



☆参加動機☆

①元々留学などに興味があつて宮里大八さんに誘われたから。

②将来の夢が心理士⇒今の自分のコミュニケーション能力を試したい!!

～行く前～

バリ島の衛生面や食べ物、マナー、お金の単位などの下調べ。
ホームステイ先の家族へのお土産。

♥気持ち♥

はじめての場所。 **緊張!!不安!!**
はじめての人。 **楽しみ。**
少人数。
衛生面。



☆バリ島で印象に残ったこと☆

①バリ島の信仰
(二曲の法則&チャナン作り🌀など)

②使える英語やジェスチャーを使って積極的にコミュニケーションをとる！

③日本との大きな違い(衛生面など)

④日本と似ているところ

⑤他国について知るということは自分を知ることに繋がっている。




将来の夢

・幅広く色々な人の心をサポートできる心理士♥

・もっと色々な国に行きたい！

・これからも挑戦する気持ち、何事も愉しむ心、笑顔(*^_^*)を忘れない!!





～最後に～

・このような機会を作ってくれた宮里大八さんをはじめ尾島さん、そして両親。関係者の方々に感謝します。ありがとうございました!!!



■寄付者及び助成機関、関係者（過去の関係者含む）

- ・公益財団法人みらいファンド沖縄 様、一般社団法人りゅうぎん国際化振興財団 様
- ・城間恒司 様、岩崎公典 様、東浜克紀 様、平良瑠夏 様
- ・沖縄地域社会ビジョン大学院 運営委員一同 様
- ・LEQUIOS mobile (レキモ) 様、ロープス株式会社 様、株式会社 Umore 様

■助成金額

651,540 円

■おわりに

本報告書をまとめるにあたって、多くの関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。今回採択された派遣者2人と海外渡航経験がある引率者1人の生徒が、インドネシアで沖縄では味わえない体験を通し、多くの学びや気づきを得て帰国しました。

帰国後の聞き取りや成果報告会での発表から、派遣者の2人が夢や目標をより明確にすることができ、引率者はリーダーシップと更にコミュニケーション能力が上がったと感じられました。

今回の結果をもとに、関係機関と連携を図りながら、ひとり親家庭、里親家庭、児童養護施設等の中高生や、より多くの生徒に海外渡航のチャンスが与えられるよう、プログラムの横展開を行っていきます。

宮里大八国際交流基金 創立者 宮里 大八

